

## 第58首

琵琶湖



作者 師岡秀雄

歌意 待望の琵琶湖への旅。湖上を進む外輪船は、風と戯れるように軽やかでした。水面は鮮やかに輝き、夏の光を映して心と同様に揺れています。

宮島さん  
COMMENT からっとした空気に映える赤い外輪がありと浮かびました。季節ごとに違った琵琶湖を楽しめるミシガンの魅力がよく表現されています。

## 第59首

大津エリア

作者 西秋陽子

歌意 連れ合いの厄逃れのため、初めて立木観音をお参りしました。長い石段を上った先には、弘法大師様を拝見でき感動。

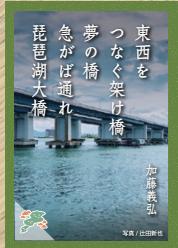


## 第60首

湖北エリア

作者 園田敦子

歌意 二十歳の頃の冒険のサイクリングの途上。滋賀県の最北の地に立って雄大な景色に圧倒された思い出を今も懐かしんでいます。



## 第61首

大津エリア

作者 加藤義弘

歌意 当時の人たちの大きな期待を背負う夢の橋だったと思います。開通当時の人々も、こういう風に橋を讃えていたのかなと想い詠みました。



## 第62首

湖東エリア

作者 森 典子

歌意 至れり尽くせりの素晴らしい学校。将来の子どもたちのため、私財をなげうって建てられました。地主たちの協力もあったでしょう。この先人たちの大きな心に学ぶべきことがあります。



## 第63首

琵琶湖

作者 しん

歌意 青春の一ページを切り取ってみました。

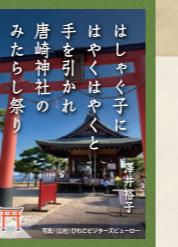


## 第64首

大津エリア

作者 なゆ

歌意 南郷水産センターで鮎のつかみ取りをしました。全身ずぶ濡れになりながら、獲った鮎は炭火焼きでとても美味しいです。



## 第68首

大津エリア

作者 澤井裕子

歌意 活気ある祭の雰囲気や団子が焼ける良い匂いに、はしゃぐ子がぐいぐい親の手を引き参道を進んでいきます。「先にお参りしてからね」と言ってる大人も楽しそう。



## 第74首

湖東エリア

作者 伊藤一男

歌意 成人の記念でしょう。ポーズをとる娘。写真を撮る母。あの時のあの子も、20歳になりました。



## 第65首

琵琶湖

作者 後藤正樹

歌意 湖西にある西大津バイパスを使いますが、朝の早い時間帯では朝日を返し輝く琵琶湖の様子が絶品です。

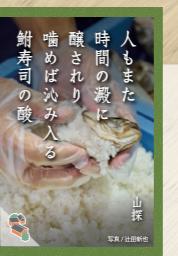


## 第69首

湖東エリア

作者 鶴鶴

歌意 母の着ていた近江上布の着物をもって、初めて着た時の思ったよりも爽やかに着れた嬉しい気持ちを表現出来たらと思いました。



## 第75首

その他

作者 山探

歌意 子どもの頃は馴染めなかった鮓寿司。けれど大人になり改めて味わえば、その奥深い香りと旨みに気づき、年月とともに育った味覚の変化を思いました。



## 第70首

大津エリア

作者 岸本栗山

歌意 日吉大社の大宮川にて、遠く離れた彼女とLINEでLOVEcallしているさま。



## 第71首

その他

作者 寺戸謙治

歌意 湖西から北に向けてビワイチに行く途中の名所を、何の工夫もせずに単純に表現しました。



## 第76首

大津エリア

作者 能勢大輔

歌意 日吉大社参拝の際、日吉の神様を敬った最澄による、日本最古の茶園を訪れました。神様のお護りもあり、茶園は今日まで紡がれてきました。



## 第66首

琵琶湖



作者 くらたか湖春

歌意 琵琶湖のレジャーは以前はウンドサーフィンやジェットでしたが、近年サップが増えました。優雅なたたずまいが、絵を描いています。

高田さん  
COMMENT 「絵筆のように」という比喩が、志賀の浦のまとう静謐な雰囲気と重なり、絵画のように美しい一首です。

## 第72首

湖東エリア

作者 田村陽子

歌意 今もひこにゃんは立っているのかと思いますが、コロナ前の元気な私は城めぐりをしていました。コロナの間に歳をとり、今は旅が難しいです。



## 第77首

甲賀エリア

作者 大西菜々穂

歌意 炎の中から生まれる信楽焼。狸の置物が微笑んでいる感じ。



## 第67首

その他

作者 大山歌胡

歌意 レンタサイクルで信長ゆかりの地をめぐる疾走感とその楽しさをユーモアを交えて詠みました。



## 第73首

湖東エリア



作者 ふるは ゆう

歌意 彦根城のゆるキャラに、秋の赤とんぼが集まる風景を想像して詠みました。大河ドラマなどを見て井伊の赤備えに憧れがあります。



## 第79首

大津エリア

作者 竹中圭子

歌意 琵琶湖開きのニュースと小説のストーリーを合わせてみました。